

「神戸女学院めぐみ教育基金」招聘教員による

特別講演会

*‘Two productions of Japanese Shakespeare in 2022: Inoue Takaki’s A Midsummer Night’s Dream and Suemitsu Kenichi’s Tomio & Yuriko’*講師 神戸女学院大学文学部
英文学科客員准教授

Sarah OLIVE 氏



講師紹介

I am a Senior Lecturer at Bangor University, Wales. Before that, I worked at the University of York for eleven years. My research focuses on Shakespeare for young people and in education. I co-authored a book on *Shakespeare in East Asian Education* with Kohei Uchimaru (Osaka City University), Adele Lee (Emerson College, USA) and Rosalind Fielding (University of Birmingham, UK) in 2021. My monograph, *Shakespeare Valued: education policy and practice, 1989-2009*, was published in 2015. I founded the British Shakespeare Association's *Teaching Shakespeare* magazine in 2011. I am the Lead Editor of the international academic journal *Jeunesse: young people, texts, cultures*.

めぐみ教育基金 学院創立 75 周年、90 周年にめぐみ会が募った学院への寄付金を基金として、毎年めぐみ会バザー収益金から 500 万円を追加寄付しています。今年度はこの基金をもとに、Sarah OLIVE 氏を文学部英文学科客員准教授として招聘しました。

講演内容 シェイクスピアや演劇を教える以外の時間は、シェイクスピア（やその他の演劇）の舞台を見るのが大好きです。旅先では必ず見るようにしているので、理解できない言語で見ることもよくあります。幸いなことに、たいていの場合、筋書きは理解できます。ベルゲンではノルウェー語、ソウルでは韓国語、そしてもちろん東京では日本語でシェイクスピアを見ました。英語以外の言語でシェイクスピアを上演することは、キャストやスタッフにとって、そして見ている私にとっても解放的なことです。私は公演を見るだけでなく、劇評を書いて発表することも好きです。今回は、2022 年 5 月に東京・紀伊國屋ホールで上演された末満健一演出の『富美男と夕莉子（ロミオとジュリエット）』と、2022 年 9 月に東京・日生劇場で行われた井上尊晶演出の『夏の夜の夢』の批評をお届けすることになりました。視覚的に美しいこの 2 つの作品の映像を交えて、トークを展開します。ご覧になった方も、そうでない方も、イギリス人の視点から見た舞台を楽しんでいただければと思います。また、ご覧になった方は、その感想もお聞かせください。

- ・ 日 時 **2022 年 12 月 16 日 (金)**
13:00~14:30
- ・ 会 場 神戸女学院めぐみ会館
- ・ 受講料 無料



- ・ 阪急今津線門戸厄神駅下車西へ徒歩 15 分
- ・ タクシーの場合は、西宮北口駅で乗車、西門経由でめぐみ会館までお越しいただけます。
- ・ 来校の際の校門は正門と西門に限定されております。

■要予約。電話・FAX・ホームページからお申し込みいただけます。

郵便番号・住所・氏名・電話番号・受講人数をお知らせください。

■お申し込み締め切り 2022 年 12 月 15 日 (木)

■自家用車でのご来場はご遠慮ください。(駐車場はありません)

主催 公益社団法人神戸女学院めぐみ会
ホームページ <http://www.megumikai.or.jp/>
後援 神戸女学院生涯教育委員会事務局受付 月～金 9:00～16:30
〒662-8505 西宮市岡田山 4-1
TEL 0798-51-3545 FAX 0798-51-3602
E-mail kc-eigo@megumikai.or.jp